

3. 業績予想と実績の差異について

(1) 2021年4月期第2四半期連結累計期間の連結業績予想と実績の差異

(2020年5月1日～2020年10月31日)

(単位：百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 四半期純利益
前回発表予想 (A)	4,020	210	195	△320
実績値 (B)	4,162	246	255	△347
増減額 (B - A)	+142	+36	+60	△27
増減率 (%)	3.5	17.1	30.8	-
(参考) 前期第2四半期実績 (2020年4月期第2四半期)	4,007	127	124	47

(2) 差異の理由

当第2四半期累計期間はコロナ禍での経済状況を加味し、2020年5月の新規会員企業の獲得の減少および2020年10月までの受注の減少を織り込んだ予想としておりました。しかし、全国的なテレワークの浸透によるエンドユーザーの新築戸建て需要が増えたこと、及び、コロナ禍における消費者ニーズの変化を捉えた「新しい生活様式」に対応する建築家のプランの提案が好評だったことから、緊急事態宣言解除後は主力の高性能デザイナーズ住宅「R+house」事業を中心に受注実績が前年とほぼ同等まで回復しました。また、2020年10月単体での売上高が「R+house」事業のロイヤルティ収入を中心に伸長しました。さらに、オンラインによる面談を増やすことで効率的な販管費の使用ができたこと、一方で助成金収入が増加したことなどから、営業利益及び経常利益につきましても前回予想を上回る結果となりました。

なお、通期の業績予想につきましては、住宅不動産業界につきましてもコロナ禍による先行き不透明な状況が続いておりますので、2020年10月26日に公表いたしました予想数値を据え置くことにしました。今後の業績動向を踏まえ、業績予想に修正が必要と判断した場合は速やかに公表いたします。

以上